

経皮的頸動脈ステント留置術中の血管内超音波検査結果をより正確に評価する為の研究

1. 研究の対象

2019年4月から2024年3月までに当院で硬膜動静脈瘻の診断を受け、脳血管内治療を受けられた方

2. 研究目的・方法

頸動脈狭窄症は、血管の内側にコレステロールなどで生じた血栓が付着して血管が狭くなることで、血栓がはがれて脳梗塞を引き起こす動脈硬化による病気の一つです。我が国ではこの動脈硬化による脳梗塞が増えており国民病の一つに挙げられています。治療はお薬で血管が詰まらないようにする方法や、切開して付着した血栓を取り除く手術が行われてきました。最近ではカテーテルの治療も進み、切らずに血管を広げるステント留置術という脳血管内治療が広く行われるようになってきました。ステントと言う金属でできた筒状のものを狭くなった血管に留置して、血栓ごと押し広げる方法です。この筒は網の目のような構造をしており、血管の形に合わせて広がることができますが、一方、押し広げられた血栓が、この網の目の隙間を通してステントの内側に飛び出してくることがあります。この飛び出した血栓が原因で、脳梗塞を再発させることがあるため、治療中にしっかり観察する事が重要です。血管の中を観察することができる血管内超音波という器械があり使用していますが、確実に飛び出した血栓を評価できているかどうかを調べた報告はありません。血栓の突出を正確に評価することが術後の合併症の低減につながりますので、当科ではより正確な評価を目指しています。本研究では当科で行われた頸動脈ステント留置術での血管内超音波検査を詳細に検証し、血栓突出の有無と脳梗塞再発の関係についても検証します。この研究結果を今後の治療での安全性を高めることに貢献したいと考えています。

研究実施期間：研究機関の長の実施許可日から2027年3月31日までになります。

3. 研究に用いる情報の種類

当院で頸動脈ステント留置術を受けられた患者様の診療録、画像情報を、当院のカルテ情報（性別、年齢、病歴、脳血管内治療歴、合併症の発生状況、カルテ番号 等）から収集します。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問がある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

高知県南国市岡豊町小蓮

088-880-2355

高知大学医学部脳神経外科教室 福井 直樹

研究責任者：

高知大学医学部脳神経外科教室 福井 直樹